

1. 評価結果概要表

平成19年 11月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	2072501154		
法人名	有限会社 ななすぎ		
事業所名	介護センターななすぎ		
所在地	長野県下伊那郡松川町上片桐4027-33 (電話) 0265-37-3313		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年11月9日	評価確定日	平成19年12月20日

【情報提供票より】(19年 10月 15日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人	非常勤1人 常勤換算7.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋鉄骨 造り		
	3 階建ての	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,500~35,000 円	その他の経費(月額)	18,500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (270000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり		1,380 円

(4) 利用者の概要 (10月 15日 現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	4名	要介護2	2名			
要介護3	2名	要介護4	1名			
要介護5	要支援2					
年齢	平均	84.1 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下伊那赤十字病院・下平歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は、松川町の北郊外に位置する小高い林の裾野にあり、西北の中央アルプスの山並から流れ来る片桐松川の広い川原が眼前に見渡せる静かな環境の場所にある。施設建物は鉄筋鉄骨三階建ての二階部分にあり一階部分は併設のデイサービス・ショートステイの介護施設がある。1階玄関から2階のホームに上がるには、1間幅の階段とエレベーターがあり、ホーム西端には非常用の外階段が取り付けられている。日常介護には、昨年一新された経験豊かな職員が「一人一人の人生が輝くような施設作り」を理念とし、食事作りを外注にし、より多くの時間を利用者と関われる時間とし親切で工夫しながらの介護に取り組まれており、将来に期待が持てる施設に成長しつつある。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は、今回が初めてである。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者以下、一新された職員全員が一丸となって良い施設作りを目指しており、今回の自己評価にも全員で各項目ごとに意見を出し合い検討し、問題点の発見に努め、評価全体の改善点に向けた今後の取り組みへの意向が示された。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の委員の依頼がようやくに始まったところであり、早急に立ち上げをし、市町村との連携と、地域住民との関わりを深めて行き、提供された意見・要望を施設運営に反映して行くよう努力するとの意向であった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の施設への来訪時を利用して出来る限り情報交換に努めているが、今以上に、家族への関わりを積極的に実施し、利用者の日常生活の情報を提供すると共に、施設への意見・苦情の汲み上げに努め、施設運営への反映に努められたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設周辺に民家が少なく、日々の交流に乏しいが、地域の小・中学生も参加する町内ふれあいの会への参加や空き缶回収への参加等徐々にふれあいの輪が広がりにつつあるので、積極的な連携に今以上に努力が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人一人の人生が輝くような施設作り」を理念とし、広報誌に明文化し、家族や職員に徹底するため、施設内にも掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全体会議や朝・昼の引き継ぎ時や話し合いの席で理念を共有するための説明がされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会で開かれる、小・中校生が参加するふれあい広場への参加や空き缶回収作業への参加等徐々に交流の輪が広がっている。	○	行事参加にとどまらず、災害時の協力体制や徘徊者の監視依頼のほか、施設への近隣住民の立ち寄りを呼びかけ、グループホームの理解を得る努力が今以上に望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を良く理解し、職員全員で各項目ごとに検討し合い、改善点の発見に努められ、今後の改善に向けた動きが始まっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	運営推進会議の立ち上げには未だ至ってい ない。	○	地域住民や市町村その他の関係機関の協 力を得るためにも、早急に委員さんの人選に 努め運営推進会議の立ち上げをされ、出され た意見をサービス向上に活かす取り組みが 望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村と ともにサービスの質の向上に取り組んでい る	町の開催する連絡会議には欠かさず出席をし サービスの質の向上への取り組みには努めて いる。	○	町の担当課の有する、利用者情報・ニーズ` を得ること及び、施設側の経営情報・利用者 状況を知ってもらうこと等サービスの質の向 上に関わる情報交換に努められることが望ま れる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状 態、金銭管理、職員の異動等について、家 族等に定期的及び個々に合わせた報告を している	施設への来訪者とは、出来る限り情報交換に 努められている。	○	家族は常に利用者の日々の生活状況や健 康状態を知りたがっていることを理解し、定期 的・個々に合わせた情報を提供されることが 望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、そ れらを運営に反映させている	開所以来まだ日が浅く家族等からの意見・苦 情の提起はないが、出された意見等は、施設 運営に反映して行きたい。	○	家族来訪への促進・施設から家族への情報 提供時を利用しての意見・苦情等の申し出を 促し、出された意見等の施設運営への反映 に努められたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や 職員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、代 わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配 慮をしている	以前の職員異動による利用者の動揺体験を 教訓にし馴染みの関係を崩さないよう、職員 の異動や離職を必要最小限に押さえる努力がさ れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への出席は出張扱いにし研修を受ける機会の確保や、職場での機会教養にも努められている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周辺のグループホームの連絡会には出席をし、サービス向上に取り組まれている。	○	サービス向上への情報交換や、災害時の協力・連携態勢の確保を目指し周辺の介護施設との交流を今以上に深められることが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭訪問を実施し、アセスメントにより利用者の状況を良く把握すると共に、家族との話し合いや、試験入所など、利用者が納得してサービスが受けられるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活暦を良く把握し、日々関わりながら学んだり、支え合う関係作りに努められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での場面場面で一人一人の希望や要望を聞き取りながら、各人の思いとペースでの生活がされるよう、職員全員が関わっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画書作成に際し、家族や関係者の意見等が十分に、話し合えていない面もあるので、職員全員で意見を出し合い、介護計画の検討と見直しをしていきたい。	○	本人・家族・関係者との話し合いを強化し、利用者の状態や意向や要望を把握しなおすと共に、職員全員でアイデアを出し合い、介護計画の検討、見直しに努められたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化に対応した見直しの努力がされつつある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所一階にデイサービス・ショートステイが併設されており、今後、町の保険課とも相談の上、多機能性を生かした支援が可能か検討していきたい。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、契約提携医師があることは説明しているが、入所前の利用者独自の掛かり付け医師への受診を希望される方には、移送支援に努められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設として、重度化や終末期に向けた介護方針を、利用契約時に十分説明し、早い段階からの家族や医師との話し合いをしていく努力がされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護時の、一人一人のプライバシーを損ねることのない対応や、個人情報の取り扱いについては、職員にも機会あるごとに注意がされている。	○	入浴・排泄・着衣交換時等における、プライバシーの保護マニュアル等を整備すること、及び個人情報の保護に関する取り扱い要領を全職員に指導・教養されることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人一人が、その日一日を自分のペースで過ごせるように、場面ごとに声掛けをし、何をしたいか意向を聞き、希望に添って支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の手間がかからない分、食事時間をゆっくり取り職員と共に楽しく会話をしながら食事し、一緒に片付けがされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を指定することなく、利用者の希望により入浴準備をし、ゆっくりと入浴を楽しめるように支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳・洗濯物の出し入れ・室内の掃除等日常の家事の手伝いのほか、趣味の手芸など利用者の出来る範囲で、役割分担をしてもらい気晴らしできる支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体力が落ち外出を拒む利用者が多いが、出来る限り散歩・買い物への同行への声掛けには努められている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設が二階のため、玄関からの階段出入り口、非常階段出入り口には、体力の弱った利用者の出入りには危険が伴うので家族によく説明し施錠がされ、一階への出入りにはエレベーターが使用されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設長から・災害時の避難経路や避難場所の説明や、利用者の急病等の際の連絡体制の指示はされているが災害時のマニュアルや役割分担、訓練要領の準備までは未だ出ていない。	○	利用者の緊急時の対応と、災害時の対応に分け、対策のマニュアル、職員の役割分担、地域住民の協力を得た訓練要領等を準備し、繰り返し避難訓練がされることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスのチェックは施設の栄養士によってされており、利用者の水分量のチェックも日々行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・居間等の共用空間は、季節の花飾りや、利用者の手製の壁飾りで飾られ、工夫された日めくりカレンダーなどにより生活感のある居心地の良い空間作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、利用者、家族と相談された家具や家族の写真、亡き方の位牌、趣味の飾りを思い思いに持ち込み各人ごとに居心地の良い居室作りがされている。		

※ ■ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。